



◆ 両副学長からのメッセージ ◆

佐久間春夫副学長（企画・研究担当理事）

明治・大正・昭和、そして平成へと時代を越えて輝かしい伝統を受け継いできた奈良女子大学、その創立100周年という記念すべき年に、理事・副学長を拝命致し、「チーム野口」の一員としてはや半年が過ぎました。昨年までの一教員とは違った思



副学長 佐久間 春夫

考回路が求められ、大学運営に関するこれまでの諸先生方のご苦労が偲ばれると同時に感謝致しております。

時代の流れとはいえ、国立大学法人化以後急速に増した多忙感や閉塞感を、企画・研究担当理事として、活力と開放感を実感できる研究環境に換えることができると願っております。「やまとは 国のまほろば たたなづく 青垣 山隠れる やまとしうるはし」高校時代の古典の授業では、望郷の歌と教わりました。本学の伝統、そして教育・研究の成果もこの歌のように永く受け継がれていくよう、皆様のお力を得て、微力ながら尽くしたいと思っております。

野口哲子副学長（教育・学生支援担当理事）

本年4月に副学長（教育・学生支援担当理事）を拝命致しました。学生として入学以来、41年間ずっと本学にお世話になっておりますので、理事・副学長としての従来の任務に加え、「卒業生として学生たちのロールモデルになること」、「同窓会（佐



副学長 野口 哲子

保会）とのパイプ役になること」も学長から仰せつかっております。

平成11年に男女共同参画基本法が制定され、平成17年には内閣府より「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度になるよう期待する。」という数値目標が出されました。しかし、女子学生たちは、社会で女性の活躍がこれほどまでに待望されている現実をあまり知らないようです。女子学生だけを不平等感なく存分に教育できる本学の特性を生かし、社会で活躍できる女性人材を育成してまいります。今、改めて、国立女子大学の責任の重さを感じております。

◆ 11月は学内イベント続々!!

皆様お気軽に本学へお越し下さい!! ◆

11月1日～3日恋都祭（ことさい）開催

～今年のテーマは「blossom」～

いよいよ、待ちに待った学園祭の季節が到来しました!!

今年のテーマである「blossom」は「開花する」を意味し、また同時に「青春」や「栄える」を表す言葉でもあります。創立100周年を祝う盛大な学園祭にしたいという学生



ステージイベント（昨年）

たちの意気込みが込められています。各日午前10時より、各団体「味に自信あり」とする食べ物の販売やステージイベント、その他趣向を凝らした催しがキャンパス一円で繰り広げられます。ご期待ください!!

11月3日平成21年度第2回オープンキャンパス開催



個別入試相談ブース



ほぼ満室となった模擬講義

7月25日、今年度第1回目のオープンキャンパスを開催しました。夏の開催としては過去最多の2,208名（保護者含む）を迎え、参加者の方々にはそれぞれ

の希望に応じた模擬講義、入試や学生生活などに関する個別相談、記念館（重要文化財）、附属図書館や学生寄宿寮の施設見学といった多彩な催しを体験して頂きました。

なお、第2回目は学園祭にあわせて、11月3日（火）に開催します。

11月1日、3日サイエンス・オープンラボ開催

～文部科学省選定「質の高い大学教育推進プログラム」事業～

理学部では、小・中・高校生を主な対象とした体験型の公開イベントを毎年開催しています。当イベントは、学部所属学生が主体となって取り組みを進めているもので、理系女性リーダーとしての自らの資質を高めるとともに、子どもたちに日頃の学校の授業



昨年度の様子（化学科）

とはひとあじ違った科学の面白さを伝えることを目的としています。

各学科の実施内容詳細についてはホームページでご覧いただけます。

11月1日～7日 秋の記念館（重要文化財）一般公開

近年、春の来館者数を上回る賑わいを見せる秋の記念館一般公開。今秋は、春に引き続き、大学創立100周年を記念した特別展示「奈良女子大学百年の歩み」を実施する他、本学の新しい活動として、90周年以降、各センターが取り組んできた事業内容を取り上げます。



展示予定の校史関係資料
実物は是非ご自身の目で!!

◆ 一般公開中の記念講演 ◆

- * 日 時 11月5日(木)13:30～14:30
- * 題 目 「奈良の近代と奈良女子大学の建築」
- * 講 師 生活環境学部 増井正哉教授

本学開発「奈良漬」スイーツに新しい顔が登場!!

～「奈良のかすていら」～

すでに、皆様にはお馴染みになりました「奈良漬アイス」や「奈良漬サブレ」に加えて、このたびあらたに奈良漬を使ったスイーツ「奈良のかすていら」がお目見えしました。6月中旬、東京新宿タカシマヤで開催された全国の大学ブランド食品が一堂に会する「第2回『大学は美味しい!!』フェア」に出品された際も追加発注するほどの人気ぶり。現地で販売に携わった生活環境学部の学生も「おいしかったよ」とわざわざ伝えに来てくださるお客様の声に感動を覚えたようです。



パッケージは「正倉院宝物緑地彩絵箱」を基調としたデザイン

商品の原案は、「奈良女子大生による奈良漬レシピ」に掲載されている「蒸しカステラ」にあります。日持ちの問題もあり、製造法は「蒸し」から「焼き」へと変わりました。餡がつくるしっとり感に、米粉のもちもち感、そして古都奈良に古くから伝わる奈良漬の香りがどこか懐かしい風味を生み出しています。

メタボ解消体操「なら 10minutes Exercise」!!



軽快なリズムに乗って体を動かす職員

健康の大敵「メタボリックシンドローム」を予防する目的で、奈良県が開発に取り組んだ「なら 10minutes Exercise」。このプログラム作成を担当するのが、本学文学部人間科学科（スポーツ科学コース）の教員です。考案したプログラムは、筋力アップと有酸素運動を効果的に組み合わせた内容で、所要時間は約10分。本学でも早速7月中旬から、週3回昼休みトレーニングが始まりました。

実施場所であるコラボレーションセンターの一室には、空調設備が完備されており、その恵まれた環境要因と、誘ってくれる仲間がいるという参加しやすい雰囲気が功を奏し、参加者は徐々に増えていきました。そして約1ヶ月後、自分自身の体組成や健康への意識が高まるなど、各個人の意識の中に嬉しい効果が生まれました。わずか10分の体操で、内に付いた脂肪を燃やすことは難しくとも、この取り組みが健康な体作りの一助となってくれることは間違いのないようです。

体操の具体的な動きは、奈良県健康増進課が運営するホームページ「すこやかネット奈良」で動画配信中です。スポーツの秋、運動習慣をつける入門編として是非お試しください。



運動負荷調査に協力する職員

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の平成21年度先端計測分析機器開発事業に理学部竹内准教授の研究課題が採択されました!!

JSTによる上記事業は、最先端の研究ニーズに応える計測分析機器及びその周辺システムの開発を行うことを目的としています。今年度、新規採択課題に選ばれた「IMSによる土壌由来カビ検出データベースの構築」（理学部化学科 竹内孝江准教授）は、古墳などに生育する土壌由来カビが放出するニオイ成分を、固相マイクロ抽出 / イオンモビリティマススペクトロメーターで観測する場合には、検出されるスペクトルからカビの種類とカビの成長段階を識別するためのソフトウェアを開発します。

「第47回 近畿地区国立大学体育大会」の結果



連覇にむけて(弓道部)

近畿地区の国立大学において、学生の課外活動の健全なる発展を図るとともに相互の親睦に資することを目的とした「近畿地区国立大学体育大会」が今年も8月に開催されました。本学は11種目に出場し、弓道部は見事優勝、またその他種目では水泳・ハンドボールが第3位、バドミントン・剣道が第4位の成績を収めるなど、本学学生の活躍ぶりが目立ちました。

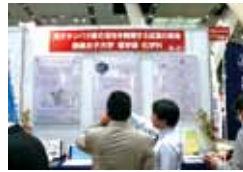
若手女性研究者支援経費採択通知式

7月2日、今年度の若手女性研究者支援経費採択者に対する採択通知式が開催されました。この支援経費は、35歳未満の大学院博士後期課程2回生以上の優秀な学生らを対象とし、その研究活動を支援するために、平成17年度から実施されています。今年度は26名の応募の中から15名が採択され、総額400万円の研究支援経費が配分されました。



採択通知式での集合写真

イノベーション・ジャパン 2009



9月16～18日、国内大学の優れた知財を広く産業界に紹介する「イノベーション・ジャパン 2009」が東京国際フォーラムで開催されました。本学は平成19年より出展を続けており、今年は「アグ リ・バイオ」分野において、理学部化学科 高島弘准教授による研究「光でタンパク質の活性を制御する試薬の開発」を紹介しました。また、今年から新たに併催企画された「大学『食』の祭典」では、本学が創立100周年を記念して開発に携わった清酒「奈良の八重桜」に関連する「ナラノヤエザクラからの有用野生酵母株分離およびその利用」（社会連携センター 藤野千代特任准教授・理学部生物科学科 鈴木孝仁教授および岩口伸一准教授）が注目を集めました。



「奈良の八重桜」紹介

大学生協は楽しいイベント盛りだくさん!!

～故郷うまいもん試食会～

6月10日、「故郷うまいもん試食会」を生協食堂で開催しました。この企画は、故郷に伝わる美味しい郷土料理のレシピを学生に募り、生協食堂自慢のお母さんスタッフらが試作します。「ゼリーフライ」は、ジャガイモとおからを混ぜて揚げた埼玉県行田市の名物です。試食会に集まった65名の学生達は、驚きのメニューを前に故郷の話題に花を咲かせました。



～盛り上がった七夕祭～

7月3日、Windy（生協に関わる学生委員会）主催の七夕祭を生協食堂で開催しました。今年は例年の食堂メニューの提供に加え、かき水やクッキーの販売など、新しい試みも見られました。「今までになかったことをプラスして、活動の幅を広げたい」と語るWindy。今後の活躍が楽しみです。



◆ 奈良女子大学は、頑張る女性を応援します ◆

「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」プログラム（平成18年度文部科学省採択事業）は、平成21年3月をもって委託事業期間としての3年を経過しましたが、引き続き大学の事業として女性研究者共助支援事業本部が中心となった精力的な取組みを進めています。

未来の自分を応援するため、 あなたも子育て支援サポーターになってみませんか？

事業本部は、平成21年度以降の主要事業の一つに「子育て支援システム『ならっこネット』」の運用を掲げています。このシステムは、子育て中の教職員・学生が研究や学業に専念できるよう、本学が独自に養成した子育て支援サポーター（有償ボランティア）に子どもの送迎や預かりをお願いする仕組みです。女性研究者の実状に則して、早朝や夜間、休日における二次保育の実施などきめ細やかな体制作りを重きを置いており、本学内（附属学校園含む）の教職員、学生なら誰でも利用できます。現在登録中のサポーターは約30名で、学生を含め、年齢層は様々です。女性研究者共助支援事業本部でネットワークコーディネーターを務める都留浩子さんは、「是非、より多くの本学学生さんにサポーターとして登録して欲しい。先輩のワークライフバランスを支援する経験を通して、自らの社会的視野を広げてもらえれば・・・。」と語っておられます。「子育て支援サポーター養成基礎講座」を受講すれば、サポーター登録が可能です。数多くの頑張る先輩方と出会い、自分自身を成長させてみませんか？



基礎講座の様子

創立100周年記念事業シンポジウム 「奈良女子大学附属学校園から日本の教育を考える」

大学創立100周年に続く、附属3学校園の創立100周年を前に、本学附属学校園がこれまで実践してきた教育を振り返り、ひいては日本の教育のあり方を考える教育シンポジウムを9月26日、記念館にて開催しました。



壇上に立つ先輩と後輩

野口哲子副学長による開会の挨拶で幕を開けたシンポジウムは、附幼から附高まで一貫して本学附属で学び続けた吉田小江子さん（現フリーアナウンサー、タレント）のゲスト講演に続き、中等教育学校サイエンス研究会に所属する生徒2名が、自らの研究内容について堂々たるプレゼンテーションを披露しました。また、3部構成の最終部として行われたパネルディスカッションでは、幼稚園教諭から大学教授に至るパネラーが、教育段階を問わず「自分を表現することの重要性」について活発な意見交換を行いました。「本学附属学校園は、一つのあるべき形・信念を持って教育活動に取り組んでいる」という中島附属学校部長の力強い言葉でシンポジウムは締めくくられ、子ども連れの保護者の姿も目立つ百数十名の参加者ひとりひとりが、「教育」という重いテーマについて考える機会となりました。



パネルディスカッション

図書館より朗報です!!

今年7月、本学附属図書館（蔵書数約52万冊）は、県立図書情報館（蔵書数約55万冊・奈良市）と相互協力協定を締結しました。この協定は、「利用者が本の輸送費を負担することなく、互いの蔵書をそれぞれの窓口で借りて返却する」ことを可能にするもので（学内者のみ）、移転・新築により、大学からはすっかり遠隔地となってしまった情報館の資料を利用する本学学生・教員には耳よりの情報です。

情報館所蔵資料は、その特色として歴史・文学関連が充実し、とりわけ奈良県とその隣接地域に関する資料については網羅的に収集していることが挙げられます。蔵書検索は双方のホームページから可能です。協定締結のメリットをフル活用してみてください。



地域で活躍

1. ボランティア活動を続ける本学クラブ「わかたけ会」

6月18日、「わかたけ会」は、国際的なボランティア奉仕組織である「国際ソプロチミスト」の一つ、「国際ソプロチミスト奈良-平城」から今年度支援金の贈呈を受けました。この支援金は、県内でボランティア活動を推進する団体を対象に、日頃の感謝を伝え、より一層の活動充実を期待して授与されるものです。人として美しい活動を続ける「わかたけ会」、今回は、その具体像を追ってみました。

<主な活動内容>

部員は、現在約20名。京都府八幡市在住の障害を持つ子ども達と、月に一度、交流を行っています。活動内容も春はピクニック、夏はキャンプなど季節に応じたものを企画しています。行事ごとの具体的な段取りについては大学内での週一回のミーティングで行います。

<活動を通して思うこと>

～部長 海川みさとさん(文学部3回生)の言葉で～



活動内容を考える際には、子ども達の「できること」と「できないこと」の見極めが難しく、時には戸惑いが先立つこともあります。ですが、その反面、初めはよそよそしかった子ども達が私達の名前を覚えてくれ、そして次第に懐いてくれるようになる時の喜びはひとしおです。

「わかたけ会」の目標は、「子ども達との交流を通して、私達自身も一緒に楽しむこと」です。「元気に、明るく、そして楽しく」、私達が何よりも大切だと考えるこの言葉をモットーにこれからも部員一丸となって頑張ります。

2. 町を綺麗に!! ～発起人は本学卒業生～

本学卒業生でタイ料理店（奈良市内）の店長を務める山田素子さん。彼女が、「もっと奈良に溶け込みたい」という想いを胸に始めた活動が、奈良町での早朝お掃除です。地域での清掃活動をした後に、仲間と一緒に朝食を食べるといふ何とも心洗われるこの取組みは、学生が学生を呼び、今では町の人に愛される「掃除部」にまで発展しました。そして、この活動を母体として結成され、彼女が委員長を務める「朝ご飯掃除推進委員会」は、来年の平城遷都1300年祭に向けたお掃除イベント「塵塵ダンスのワークショップ」を開催するなどさらなる躍進を続けています。

「綺麗な街にお客様を」と願う「おもてなしの心」、その心はきっと奈良を訪れる人々を魅了するはずです。



日本留学フェア〔台湾・韓国〕



留学生の奈良女愛は
不滅です!

今年も日本学生支援機構(JASSO)主催の留学フェアが台湾・韓国で開催されました。本学ブースには両会場合わせて400名近い学生が駆けつけ、特に韓国会場では、佐久間副学長自らが学生へのPR活動に汗を流しました。一方、台湾会場では、協定大学学生の訪問が多く見られました。いずれの会場も、本学ブースでは帰国した卒業生や交換留学生在が大活躍しました。

帰国留学生報告会(学長との懇談会)

学生交流協定に基づき留学していた学生が帰国したのを機に、9月24日、野口学長を囲む懇談会形式の報告会を実施しました。留学先での体験談を熱心に語る学生に対し、学長と小山国際交流センター長から様々な質問がなされ、にぎやかな雰囲気での報告会になりました。



さまざまな体験談を学長に報告

外国人留学生実地見学旅行

9月16・17日、日本の歴史・文化・自然などについて理解を深め、留学生相互の親睦を図ることを目的に、和歌山方面への見学旅行を実施しました。一日目は伝統の蒔絵をお盆に描く体験をし、二日目は那智の滝や串本の海で自然を満喫しました。また、太地町では捕鯨の歴史を学び、間近でゴンドウクジラと接することができました。



蒔絵を体験

国際交流協定締結

－ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学と交流協定を締結－

5月26日付けで、大学間交流協定を締結し、両大学間の研究交流の基本的枠組みが整備されました。

－台湾 東海大学と交流協定を締結－

9月14日付けで、大学間交流協定を締結しました。本協定には、授業料不徴収による短期学生交流の合意書も添付され、両大学間の教育・研究交流の基本的枠組みが整備されました。

国際交流往来



記念館前で集合写真

☆台湾国立清華大学から、研修の一環として、2回にわたり事務系職員(計38名)の派遣がありました。職場見学などの後、業務グループに分かれて、大学運営から事務の諸問題まで多岐にわたる質疑応答を行いました。

★9月14日、佐久間副学長が梨花女子大学を訪問し、本学創立100周年記念式典に出席いただいたAhn Hong-sik副学長を訪ね、今後の両大学の発展について意見交換を行いました。

★9月13～15日、大連理工大学での研究セミナーにおいて、人間文化研究科 岩渕修一研究科長および飯田雅康教授、生活環境学部 原田雅史准教授の3名が研究発表を行い、研究交流の推進に向けて協議を行いました。

－交流協定大学への教員派遣－

南京大学、蘇州大学およびベトナム国家大学ハノイ 外国語大学への教員派遣を行いました。本事業は、学生を同道して教室運営や教授法等の研修を行うとともに、現地大学の学生との交流を通して異文化の理解や国際的視野の醸成を図ることも目的としています。

★9月13～23日 南京大学において、人間文化研究科 坂本信幸教授と文学部 松尾良樹教授が学生3名を同道し、他大学の教授らとともにオムニバス形式で上代日本文学に関する講義を実施しました。

★9月14～23日 蘇州大学において、文学部 鈴木広光准教授が日本語学に関する講義を実施しました。

★9月20～26日 ベトナム国家大学ハノイ 外国語大学において、文学部 寺岡伸悟准教授が学生2名を同道し、現代日本文化・社会に関する講義を実施しました。

国際交流基金

－奨学金授与式－

(外国人留学生奨学金6月3日、派遣学生奨学金8月7日)
奈良女子大学国際交流基金(平成12年度設立)は、外国人留学生及び協定校への派遣留学生に対する奨学事業を実施しています。今年度も外国人留学生9名、派遣留学生3名を対象に奨学金採用決定通知書授与式を挙行了しました。式では、野口学長が対象者に決定通知書を授与するとともに、授与者各位の活躍について激励の言葉を述べられました。

当事業の開始から今年度までの奨学金授与者数は、延べ115名にのぼっています。

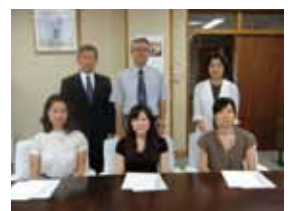
－使途報告－

平成21年度については、以下のとおり。

- ・外国人留学生奨学金 9名(博士後期課程4名、博士前期課程5名)
一人月額4万円 1年間 計432万円
- ・派遣留学奨学金 3名 一人10万円 計30万円
- ・留学生スピーチ大会援助
10名分 発表者に一人1万円の図書カード 計10万円



Ahn Hong-sik 副学長(左)
と佐久間副学長



学長、両副学長の激励を受けた
派遣留学生3名

編集・発行 奈良女子大学広報企画室
編集責任者 佐久間春夫(副学長)
連絡先 奈良女子大学総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205
E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

